

# 令和元年度 特別養護老人ホーム大仙園 事業報告

## <施設理念>

特別養護老人ホーム大仙園は「笑顔のありがとう」をいただける「笑顔のあたりまえ」を基本理念として、日々の利用者の生活を支えています。利用者とそのご家族の皆様から満足と笑顔が返ってくるように「思いやりのこころ」で介護に努めます。

## <基本方針>

1. 利用者の生活の質の向上を目指し、利用者やそのご家族に対してニーズの充足に応える。
2. 人材育成に取り組み、職員の知識、技術の向上及び業務の改善に努力する。
3. 地域との連携を強化し、利用者はもとより地域における福祉の充実に貢献する

## <重点目標>

1. 施設理念に基づき、利用者が自分らしく生きることを支援します。
2. 介護職員を中心に多職種が連携し、利用者が安全で安心して過ごせる生活を提供する。
3. 利用者の個別性の理解を深めるとともに、個々に応じた目的のあるケアを実践する。
4. 利用者の身体的・精神的状態を把握し、協力病院と連携し疾病予防に努める。
5. 居室の整理整頓に努め、快適な生活を送っていただけるよう配慮する。

令和元年度については、利用者の皆様への提供しているサービスの質の向上について重視した取り組みを行い、介護を中心とした多職種との連携を重視し、継続して安心で安全な施設での生活が送っていただけるように、細やかな情報交換や報連相を相互に行うことで、生活の質の向上に寄与できるように取り組みました。また、協力病院との連携にも心掛け、疾病の予防や早期発見とその対応を図ることで、できるだけ健康的な生活が継続できるように支援をさせていただきました。

### 1. 事故・ヒヤリハット報告

ヒヤリハットの件数について、平成30年度は177件でしたが、令和元年度は101件となっており、前年度比は従来型が42件減、ユニット型は34件減となっています。事故については、全体で6件減となっており、従来型が1件減、ユニット型は5件減となっています。

実際に発生した事故報告を基に、カンファレンス等で事故対策等について協議・検討をしましたが、全体の件数は減少していますが、骨折や転倒といった重大事故の件数については変化がなく、今後も対象者の日々の心身状態の把握や観察、見守りの強化及び環境整備を強化し、少しでもこういった事故の発生が減少できるように、職員間の情報交換を密にして対応に努めてまいります。

このことに関連して、事故防止検討委員会を年に4回開催し、介護事故が発生しないようにヒヤ

し、利用者の紹介や確保に努めたいと思います。現状の利用していただいている対象者の居住地域としては、河内町や高屋方面の方に多くご利用いただいております。

<令和元年度 事業計画実施状況>

◇ 介護サービス部門計画 従来型  
(部門別事業計画)

1. 「自分の仕事が何につながっているのか、どんな価値があるのか」という目的を明確に持ち、施設理念に沿ったケアを提供する。
2. 利用者様に安心して生活して頂けるよう業務改善を行い、統一されたケアで支援を行う。
3. 他職種連携の支援を行い、利用者様が安楽に過ごしていただけるようにする。

日頃の業務の中で理解が不十分であると感じた職員に対して、その都度指導を行った。しかし、指導内容が画一的であり、その職員に合ったものを実施できていたとは言い難く、その結果指導を受けた職員が十分に理解できなかったのか、改善までには至らないこともあった。

その反省点を踏まえ、OJT を行う際にはその人の特性なども踏まえて柔軟な対応ができるよう心掛けていきたい。また、可能であるならば OJT だけでなく、OFF JT や OJD も取り入れながら職員の成長できる機会を設けていきたいと考えている。

業務改善については、利用者の使用されているオムツのサイズなどを記載されている一覧表を作成し支援内容の統一を図り、移乗の際の横抱きについての危険性を周知し、職員 2 名での移乗を行うよう促してきた。

しかし、職員間で使用オムツや支援方法が異なる場合が現在も見られ、ケアの統一までには至っていない。また、未だに移乗介助時に横抱きなど依然として危険な介助方法を用いている職員もいる。行動目標の中にも記載してある業務内容のマニュアルについては作成できたが、実際の運用までには至らなかった。

今後は作成したマニュアルを活用しながらケアの統一を図ると共に、危険な介助方法について職員間で指摘し合いながら減らしていきたい。

また、事故・ヒヤリハットカンファレンスは毎週月曜日に開催したが、利用者の身体能力低下や職員の介護技術の未熟さゆえというものが原因であると捉えることが多くあり、利用者の心理的な面や、居室などの環境面が適切であるのかといった所まで話し合えることが少なかった。ベッドの配置を変更させて頂いた利用者様が何名かおられるが、その後は居室で落ち着いて眠られるようになり、転倒・転落といったことが軽減しているという実績もある。

ケアカンファレンスの際には身体的な面ばかりに着目するのではなく、「なぜその行動に至ったのか」、「環境整備は適切であるのか」といった 2 点も留意しながら行うようにし、事故の予防を図ることで利用者が安楽に過ごしていただけるようしていきたい。

#### ◇ 看護部門計画

##### (部門別事業計画)

1. 入所者が安定した生活が維持できるよう健康管理に努める。
2. 介護職員が安心・安全な医療的ケアが実践できるよう医療的ケアマネジメント能力の維持をサポートする。
3. 看取り介護において、看取り同意から最期の時まで、多職種協働でご本人様、ご家族が良かったと思えるような関わりを持つ。

適宜、バイタルサイン測定や日々の観察を行い、往診時に医師へ報告、相談をしており、受診が必要な利用者様は、その都度受診しております。本年度は25件の入院がありましたが、入院件数は前年度と比較して同等になっています。今後も医師との密接な連携を図り、継続した健康管理に努めています。

介護職員への研修会で、喀痰吸引の注意点などを再確認しています。医療行為での事故は0件でした。日々の利用者へのケアや関わり方についても、必要に応じて看護師から助言や声掛けを行う事ができました。

看取り介護の開始時に、カンファレンスを開催し多職種で利用者の状態に即した関わり、ケア方法などを検討しています。またエンドカンファレンスではその関わりがどうであったかの振り返りを行い、今後の看取り介護に活かしていました。

利用者のご家族によって、看取り介護の認識の相違や、利用者的心身状態をみて心が揺らぎ、当初の考え方が変化することもありました。

ご家族との関わりの中で看取りについての考え方や、思いを詳しく把握し必要時には医師とご家族で協議をする機会を設けていきます。

#### ◇ 機能訓練部門計画

##### (部門別事業計画)

1. 生活リハビリを重視して、残された活動能力が維持できるようアプローチする。
2. 他部門との協働の基で、自立支援を目指した訓練内容を実践する。
3. 理学療法機器（マイクロ波・ウォーターマッサージ）を活用し、利用者の心身のリラックス効果を図る。

介護職員との協働によって、毎朝にラジオ体操、毎食前に口腔体操による嚥下機能訓練を行うことができた。日々の看護職と介護職との連携を強化し今後も継続していく。

生活の中で、食事・排泄・移動について個々の能力、残存機能を最大限維持できるように取り組んだ。特に離床を適宜行うことで、車椅子への移乗動作、歩行状態の観察や身体を動かすことによって、関節可動域が減少しないように意識した。

また同じく、利用者に対して安易にオムツ使用に移行せず、トイレ誘導を行うことで機能低下を予防することができたので、継続して取り組んでいきたい。

◇ 生活相談サービス部門計画

(部門別事業計画)

1. 利用者ならびにご家族への相談援助を通して信頼していただけるよう相談技術向上に取組み、利用者満足度の向上に努力する。
2. 入所および退所が円滑に行われるよう待機者リストの整備・待機者 50 名の確保・月 1 回の入所会議を計画的に取り組む。
3. 地域に役立つ施設を目指し相談窓口および介護相談等で頼っていただけるように取り組む。
4. 在宅生活をされておられる要介護者及びご家族の支援のために、居宅介護支援事業所及び医療機関との連携強化に取り組む。

充実した待機者の確保のために、今後も各関係機関との連絡や情報を共有することで、情報の収集に努めていきたい。

利用者ご家族との関係性を良好に維持し綿密な情報の共有をするためにも、ご家族への電話連絡や日常的な対応及びケアプランの作成及び要介護認定に係る訪問調査への立会い等について、介護職員が少しでも対応できるようにする必要性がある。

入所前の面談に、看護師や介護職員が同行することで、事前に詳細な情報を入手し入所後の満足した生活に結び付けたい。

◇ ケアマネジメント部門計画

(部門別事業計画)

1. 利用者様おひとりおひとりに最後まで豊かな生活を送っていただけるよう利用者様第一に考える。
2. 利用者様の自律生活の可能性を広げる為、解決すべき課題の把握に努め生活上の困難や不便を少しでもサポートができるようにする。

ショートステイも含め利用者のケアプランの作成に追われる事が多く、個別性のあるケアプランが作成できていなかった。

また、カンファレンスは介護職員に頼っていた部分があった為、多職種が連携してケアプランの内容を含め状態の確認を行う必要があった。

昨年度の反省を活かし今年度は利用者様の受診後や状態変化の連絡を率先して行えたため、引き続き来年度も、看護師や相談員との連携を密にし、利用者とご家族の信頼関係の構築に努めることができるようにしたい。

# 令和元年度 軽費老人ホームケアハウス大仙 事業報告書

## <施設理念>

「笑顔のありがとう をいただける 笑顔のあたりまえ」

## <基本方針>

1. 入居者のみなさまに安心した生活を送っていただくよう支援していきます。
2. 家族、他事業所との信頼関係・連携を大切にしていきます。
3. 楽しみをもった生活ができよう支援していきます。
4. ケアハウスの運営に係る規則の見直しを進め、利用者にとってより良い生活を提供する。

## <重点目標>

1. 現在の生活状況に変化が見られた場合は、身受けのご家族に速やかに連絡を行い、ご家族と連携を深め、入居者の健康管理に対応していきます。
2. ご家族と最低でも毎月1回で面談を行います。また、担当ケアマネージャーと連携し、ご家族への情報の共有を行います。
3. 日々の生活の中で楽しみを持っていただくために、様々な行事や活動を実践する。
  - ・地域での行事の参加を促す。
  - ・午前はいきいき体操を継続する。
  - ・午後からレクリエーションを行い、体力向上に努める。
  - ・特養との連携を図り、特養行事にも参加を促す。
4. 運営の見直しの中で、挙がる議題を毎月開催される運営会議で協議・検討し、本年度も継続して施設運営の改革を進める。

令和元年度のケアハウスは、年度初めに28名の入居者数で始まりました。その後9月に体調不良による医療機関へ入院し、そのまま逝去される方や心身の状態の低下に伴いケアハウスの利用継続が困難な方が4名となり、稼働率の維持が困難な状況となりました。

近隣の市町の医療機関や地域包括支援センター等へ営業活動に出向き、ケアハウスのご利用についてアピールをしました。その後問い合わせはあるものの、対象者の心身状態がケアハウスで対応できるようなものでなく、新規入居へ結び付かないケースが殆どで、稼働率は前年度と比較して、1割程度下回る結果となりました。令和元年度末の年齢構成を見ると、80歳以上の方が19名と約8割を占めており、前年度に比較して高齢化が進んでいるのが現状です。

昨年度から新たに始めた運営会議も毎月開催しております。その中で入居者の皆様の日常生活に必要な適切且つ快適なサービスの提供を目指し、より良い方向で協議・検討を重ねています。今後は現状で提供している買い物サポートや通院サポート等の充実化を図り、日々の生活が安心して

継続できるように支援をさせていただきます。また、園内行事や外出行事について一部有料化にしましたが、入居者にとって精神的な安らぎや生活の中での一番の楽しみの一つに思っていただけるよう、より内容を充実させることで、皆様に心から楽しんでいただけるような場面の提供ができるように、趣向を凝らした内容の計画を行います。

また、近隣の在宅サービス関係事業所や医療機関との連携を密にし、入居希望者の情報収集と円滑な入居までをサポートしながら、継続したケアハウスの稼働率の上昇を目指します。

# 平成 31 年度（令和元年度）入野光保育園 事業報告書

## 1. 事業の概要

十分に養護の行き届いた環境の下に、くつろいだ雰囲気の中で子どもの様々な欲求を満たし、健康の保持及び情緒の安定を図った。お陰で子どもが健やかに成長し、その活動がより豊かに展開できた。愛され大切にされる経験が、人への思いやり、強さ、自立心を育んでくれたと感じている。

大きな事故・問題もなく保育ができ、27名の卒園児を元気に送り出せた。

保育目標 「 強く・ 正しく・ 優しく 」

～たくましさと思いやりのある子どもに～

目指す子ども像を

- ・ 考える子どもに
- ・ 思いやりのある子どもに
- ・ 感動する子どもに
- ・ 思いが表現できる子どもに
- ・ 根気のある子どもに

として取り組んできた。

留意してきたことは、保育士自身が子どもの思いを共感的に汲み取り、思いやりのある態度で接し、子どもの自己表現を引き出せるようにしたこと。

常に保護者と連携を取り合いながら、目的達成に努めた。

- ・ 連絡帳 (毎日)              • 個人懇談 (4月終り～5月始め)
- ・ 園だより (毎月)              • 保育参観 (保護者会) (年4回)
- ・ 各組の保育実践の振り返り (毎月)

給食は、家庭的な味付けを大事にしながら、乳幼児期という特性を踏まえ、その子どもたちの一生の食生活を形成するという役割を重視して、様々な工夫を凝らした。おやつも手作りを中心とした。

特別な保育事業を実施した。

- ・ 地域子育て支援拠点事業 (週3日程度実施)      • 障害児保育事業
- ・ 延長保育事業 (開所時間を 7:15 ~ 19:00 に延長)
- ・ 緊急一時預かり事業 (希望に応じて)

## 2. 園児の状況 定員 80 名

	年度初め	途中入園	途中退園	年度末
0歳児	2	5	1	6
1・2歳児	21	6	4	23
3歳児	15	1	0	16
4・5歳児	53	3	3	53
計	91	15	8	98

### 3.職員の状況

園長	1名	パート保育士	3名
主任保育士	1名	事務員	1名
保育士	10名	(嘱託医)	(2名)
調理員・等	4名	パート保育者	2名

### 4.主要年間実施行事

4月	入園式	健康診断	歯科健診	保護者会	個人懇談
5月	親子遠足	尿検査			
6月	衣替え	運動会	冷水摩擦始め	プール開き	大仙園慰問
7月	七夕会	地震退避訓練	シャボン玉会	保護者会	年長児お泊まり会 火災通報 訓練 不審者対応訓練 消火器等総合点検・消火器使用訓練
8月	夕涼み盆踊り大会				
9月	プール納め	お月見会	敬老会・大仙園慰問		
10月	衣替え	健康診断	園外保育	歯科健診	祖父母の会・餅つき大会
11月	縄跳び大会	老人会との交流	尿検査	レストランごっこ	
12月	ふれあい参観(第2土曜)	お店屋さんごっこ(製作展)			
1月	発表会衣装相談・マラソン大会				
2月	節分豆まき	発表会予行練習	発表会(第4土曜)		
	消火器等点検	地震退避訓練	火災通報訓練	不審者対応訓練	
3月	年長児お茶ごっこ集い	年長児お別れ遠足	大仙園慰問	園児お別れ会	
	卒園式				

#### 講師を招いて

毎月	交通安全訓練	英会話教室(月4回) 年長・年中児 講師: アングレイニー・ステラ
	火災退避訓練	お茶ごっこ(月2回) 年長児 講師: 盛本美幸・平野喜久恵・平賀幸子
	身体測定	囲碁ゲーム(年6回) 年長児 講師: 堀江誠及
	お誕生会	リズム運動遊び(年4回) 講師: 松本雅子・木原涼次

## 5.職員研修の状況

園内職員会議 毎月 1 回

園内人権保育学習 年 5 回

東広島市民間保育施設長会 年 6 回

こども未来部 保育課との連携を図り、保育運営等の充実に努めた。

市保育連盟との連携を図り、保育の質の向上に努めた。

市・保育連盟 総会・講演会

全体研修会

調理員研修

県・保育連盟 保育事業研修大会 (2 日間)

所長研修 (2 日間)

夏季保育研修 (2 日間)

市内・調理担当職員研修

県・特定給食研修会

市保育課・サポート事業研修

幼保・小接続研修

アレルギー講演会

キャリアアップ研修：4 人・・・17 種別